

(1) 福岡県の気象概況 (2001 年 1 月 ~ 12 月)

福岡管区気象台

1 月上旬 : 前半は冬型気圧配置、後半は低気圧や前線の影響、4 日は脊振山で初冠雪

月上旬の前半は冬型の気圧配置の日が多く、後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。2 日は福岡や飯塚で今年初めて黄砂を観測した。2 日から 4 日にかけては冬型の気圧配置が続き、4 日は福岡で脊振山の初冠雪 (平年より 31 日遅い) を観測した。5 日の明け方は寒気の影響と晴れて放射冷却が効いたため冷え込み、最低気温は黒木で - 4.0 、甘木で - 3.9 、飯塚で - 3.2 など県内のほとんどの観測所で氷点下となった。7 日は黄海にあった低気圧が対馬海峡を、東シナ海にあった低気圧が九州付近をそれぞれ発達しながら通過したため、県内各地で 11 ~ 34 mm の雨が降った。9 日は東シナ海にある低気圧が発達しながら対馬海峡を通過したため、県内各地で 12 ~ 27 mm の雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より 0.2 ~ 0.9 高く、旬降水量は 28 ~ 59 mm (平年比 120 ~ 210%) と多かった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間はともに平年並であった。

1 月中旬 : 強い冬型気圧配置で低温続く、14 日から 16 日にかけて各地で積雪、添田で 20 cm

中旬の中頃は強い冬型の気圧配置となり、この冬一番の寒気が流れ込み平野部でも雪が降った。14 日は福岡で初雪を観測し、16 日 15 時には添田で 20cm の積雪を観測した。福岡県内で 20cm 以上の積雪を観測したのは、1984 年以來 17 年ぶりのことである。県内のその他の観測所での 14 日から 16 日にかけての最深積雪は、飯塚で 12cm (16 日 9 時)、行橋で 10cm (15 日 9 時)、甘木で 10cm (16 日 9 時)、福岡で 5cm (15 日 15 時)、大牟田で 2cm (14 日 9 時) であった。また、14 日は強い寒気の流れ込みにより風が強まり、最大瞬間風速は福岡で西北西の風 21.7m/s を観測した。

旬の初めと終わりは低気圧や前線の影響を受けた。11 日は寒冷前線が九州北部を通過して県内各地で 1 ~ 11 mm の雨が降り、20 日は低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で 7 ~ 19 mm の雨が降った。気温は、中頃を中心に平年より低い状態が続き、福岡の旬の平均気温は 4.0 と平年よりかなり低くなった。県内各地の旬平均気温は平年より 1.9 ~ 3.1 低く、旬降水量は 14 ~ 39 mm (平年比 48 ~ 126%) であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり低く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

1 月下旬 : 低気圧や前線の影響で雨の日が多く、旬の降水量は県内各地で平年の約 3 ~ 5 倍

下旬は低気圧や前線の影響を受けて雨や曇りの日が多かった。25 日は発達中の低気圧が九州南部を通過したため、県内各地で 23 ~ 57 mm の雨が降った。英彦山では日降水量 57 mm を観測し、1989 年の観測以來 1 月の日降水量としては最も多い値となった。また頂吉、行橋、前原、大宰府、添田、甘木でも 1 月の日降水量の多い方からの第 2 位を観測した。26 日から 27 日にかけては九州南岸で発生した低気圧が発達しながら北東へ進んだため、県内各地で 14 ~ 37 mm の雨が降った。28 日は上空に強い寒気が流れ込み大気の状態が不安定となったため、雷を伴って県内各地で 4 ~ 19 mm の雨や雪が降った。県内各地の旬平均気温は平年より 0.6 ~ 1.4 高く、旬降水量は 49 ~ 105 mm (平年比 290 ~ 524%) とかなり多かった。月の降水量はかなり多くなり、宗像、八幡、頂吉、行橋、前原、大宰府、添田、甘木では 1 月の降水量の多い方からの第 2 位を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

2月上旬：中頃は曇りや雨、初めと終わりは晴れ、8日は福岡で梅開花

上旬の中頃は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、初めと終わりは高気圧に覆われて晴れた。1日は日本海にある低気圧から伸びる寒冷前線が通過したため、県内各地で1~12mmの雨が降った。4日から7日にかけては九州の南海上にある前線や低気圧の影響を受けて、県内各地で17~29mmの雨が降った。旬の終わりは東シナ海に中心を持つ高気圧に覆われて晴れた。8日は福岡で梅の開花（平年より4日遅い）を観測した。旬の初めと終わりは平均気温が平年より低くなったが、中頃は平年より高くなり、3月中旬並の気温となった日もあった。県内各地の旬平均気温は平年より0.2~1.2高く、旬降水量は18~36mm（平年比86~245%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

2月中旬：晴れの日が多く、日照時間がかなり多い

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。15日夜から16日朝にかけて黄海にある低気圧が発達しながら日本海へ進み、この低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を通過したため、雷を伴って県内各地で1~8mmの雨が降った。旬の中頃までは弱いながら寒気が流れ込むことが多く、福岡の平均気温は平年より低めで経過した。11日、15日、17日は明け方晴れて放射冷却が効いたため、県内各地で最低気温が氷点下となった。特に17日の最低気温は黒木で-4.8、甘木で-4.6、飯塚で-3.6と冷え込んだ。旬の終わりは寒気の流れ込みもなく高気圧に覆われて晴れたため、気温は平年より高めで経過し、19日と20日の最高気温は3月下旬並となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.3~0.8低く、旬降水量は3~14mm（平年比9~51%）であった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

2月下旬：28日は九州北部で春一番、23日から24日にかけてまとまった雨

下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。21日は九州北岸にある停滞前線が九州を南下したため、県内各地で7~18mmの雨が降った。23日から24日にかけては発達中の低気圧が九州北部を通過して、この低気圧から伸びる前線がゆっくり南下したため、県内各地で19~59mmとこの時期としてはまとまった雨となった。28日は低気圧が発達しながら日本海西部を東へ進んだため、南よりの暖かい風が強く吹き、福岡管区气象台では「九州北部地方で春一番が吹きました。」と発表した。最大瞬間風速は福岡で東南東の風17.6m/s、飯塚で南西の風12.2m/sを観測した。また、この日の降水量は県内各地で8~17mmであった。22日と23日は南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、日最高気温が甘木で19.9（22日）、大牟田では19.5（23日）となり、4月中旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.6~3.3高く、旬降水量は43~83mm（平年比188~270%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

3月上旬：強い冬型気圧配置、9日は添田で積雪7cm

上旬は寒気が流れ込み強い冬型気圧配置となる日が多く、気温は平年より低く経過した。1日は寒気が流れ込み大気の状態が不安定となったため、雷雨となり福岡市を中心にひょうの降ったところもあった。3日の夜遅く寒冷前線が通過した後、真冬並の寒気が流れ込んで強い冬型気圧配置となった。このため、4日は平地でも雪やあられが降り、また風が強く、最大瞬間風速は飯塚で西の風24.7m/s、福岡で西北西の風21.4m/sと大荒れの天気となった。その後天気は一旦回復したものの、8日から9日にかけては再び真冬並の寒気が流れ込んで強い冬型気圧配置となり、最大瞬間風速は福岡で北北西の風22.9m/s、飯塚で西南西の風22.3m/sを観測し、平野部でも雪やあられが降り、9日の朝には添田で7cm、行橋と甘木で1cmの積雪となった。県内各地の旬平均気温は平年差-1.5~+0.1で、旬降水量は11~75mm(平年比37~146%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

3月中旬：晴れの日が多い、20日福岡の最高気温22.2

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。16日から18日にかけては華南から九州の南海上へ前線が伸びだし、その前線上に低気圧が発生して九州南部を通過したため、県内各地で17~32mmの雨が降った。気温は初め平年より低かったが、半ば以降は平年より高く経過した。20日は八幡、福岡、太宰府、甘木では最高気温が20を上回り4月下旬から5月上旬並の陽気となった。福岡の最高気温は22.2であった。県内各地の旬平均気温は平年より0.8~1.4高く、旬降水量は17~35mm(平年比36~54%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

3月下旬：前半は暖かい晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い

22日は福岡でソメイヨシノ開花

下旬の前半は高気圧に覆われて安定した晴れの日が続いた。22日と24日は暖かい南風も加わり、県内各地で最高気温が20を上回り、5月上旬から中旬並の陽気となった。後半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。25日は低気圧の影響で県内各地で3~11mmの雨が降った。29日は日本海にある寒気を伴った低気圧の影響で、県内各地で0~16mmの雨が降った。30日から31日にかけては低気圧が九州を通過して、県内各地で2~32mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.8~2.1高く、旬降水量は6~54mm(平年比10~93%)であった。

生物季節観測では、22日に福岡でソメイヨシノの開花(平年より4日早く)を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は平年並であった。

4月上旬：晴れて暖かい日が多く、10日の甘木の最高気温 27.1

1日は福岡でソメイヨシノ満開

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。9日は低気圧が九州南海上を通過したため、県内各地で0~20mmの雨が降った。10日は高気圧に覆われて晴れたため気温が上昇し、県内各地で最高気温が25以上の夏日となり、特に甘木では最高気温が27.1と6月上旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.1~1.8高く、旬降水量は1~20mm(平年比2~40%)と少なかった。

生物季節観測では、1日に福岡でソメイヨシノの満開(平年より2日早い)を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。

4月中旬：晴れの日が多く、少雨

中旬の天気は周期的に変化したが低気圧や前線の影響は小さく、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。19日は強い日射の影響で気温が上昇し、行橋、添田、甘木、久留米、黒木では最高気温が25以上の夏日となった。福岡では11日から16日まで6日連続して黄砂を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.4~1.9高く、旬降水量は1~6mm(平年比2~14%)とかなり少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間は平年並であった。

4月下旬：天気は周期的に変化、23日は甘木で最低気温 3.3

25日、福岡県に少雨に関する情報を発表

下旬の天気は周期的に変化した。23日は高気圧に覆われて晴れたため、放射冷却が効いて気温が下がり、最低気温が甘木で3.3、宗像で3.5、行橋で3.6と平年より4~6も低くなった。21日は低気圧が九州の南海上を通過したため、県内各地で4~28mmの雨が降った。24日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で3~20mmの雨が降った。しかし、4月に入ってから24日までの降水量は各地とも平年比50%未満であったため、25日福岡県に少雨に関する情報を発表した。29日から30日にかけては動きの遅い低気圧や前線の影響で、県内各地で11~33mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.7~1.4低く、旬降水量は35~63mm(平年比66~127%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

5月上旬：曇りや雨の日が多い

上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。1日から2日にかけては動きの遅い低気圧の影響を受け、県内各地で28～66mmのまとまった雨が降った。6日から8日にかけては九州南海上に停滞する前線や低気圧の影響で、県内各地で弱い雨が降った。このため旬の日照時間は平年よりかなり少なかった。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.1\sim+1.0$ で、旬降水量は30～69mm(平年比42～152%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

5月中旬：晴天が続き、県内では降水なし

中旬は高気圧に覆われて安定した晴れの日が続いた。このため日照時間が平年よりかなり多く、県内の観測所では1mm以上の雨を観測しなかった。19日と20日は強い日射のため気温が上昇し、19日は甘木で最高気温が30となり今年初めての真夏日となった。20日の最高気温は甘木で31.2、太宰府、久留米で29.9など、7月上旬から中旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～2.5高く、旬降水量は0mm(平年比0%)とかなり少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

5月下旬：曇りや雨の日が多い、九州北部地方は21日頃梅雨入り

下旬は低気圧や前線の影響で曇りの日が多かった。このため日照時間が平年より少なかった。21日と30日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で21日は8～50mm、30日は12～43mmの雨が降った。九州北部地方は5月21日頃に梅雨入りした。24日は寒気の影響で気温が下がり、八幡で最高気温が17.9を観測するなど4月中旬並の気温に戻った。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～1.3高く、旬降水量は32～116mm(平年比69～285%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

6月上旬：中頃は雨、初めと終わりは晴天

上旬は中頃に梅雨前線の影響で雨が降ったが、旬の初めと終わりは高気圧に覆われて晴れた。5日から6日にかけては梅雨前線が九州中部付近まで北上し、県内各地で7~60mmの雨が降った。その後、梅雨前線は九州の南海上に停滞することが多く、旬の降水量は平年より少なかった。8日と9日は強い日射のため、甘木と久留米では2日連続して日最高気温が30以上の真夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.4~1.7高く、旬降水量は7~60mm(平年比9~61%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は少なかった。

6月中旬：19日は梅雨前線の活動が活発となり記録的大雨

中旬は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かったが、初めと中頃は高気圧に覆われて晴れた。13日から14日にかけては梅雨前線上の低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で22~100mmの雨が降った。18日から20日にかけては朝鮮半島南部にあった梅雨前線が九州北部をゆっくり南下し、前線の活動が活発となったため県内各地で92~338mmの大雨が降った。19日の降水量は添田で303mmに達したほか、九千部山、篠栗、頂吉、太宰府、前原の県内6ヶ所の観測所で6月の日降水量の多い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より0.0~1.1高く、旬降水量は135~425mm(平年比131~396%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多く、日照時間は平年並であった。

6月下旬：梅雨前線の活動強まる

下旬は九州南海上にあった梅雨前線が北上し、九州北部から対馬海峡に停滞したため雨の日が多かった。23日から25日にかけては梅雨前線が活動を強めながら九州北部まで北上し、その後も対馬海峡に停滞したため局地的に雷を伴った激しい雨が降り、県内各地で14~204mmの雨が降った。25日は太宰府で10時までの1時間に46mmの激しい雨を観測した。28日から29日にかけては九州中部まで南下していた梅雨前線が再び九州北部まで北上し、県内各地で14~120mmの雨が降った。また、南から暖かく湿った空気が流れ込んだため気温は平年より高めに経過し、特に26日の最高気温は福岡で33.1、甘木で32.4など県内すべての観測所で真夏日となった。30日は県内すべての観測所で最低気温が25以上の熱帯夜となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.3~2.0高く、旬降水量は136~327mm(平年比59~195%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

7月上旬：前半は晴れて猛暑、中頃は大雨

上旬の中頃は梅雨前線の活動が強まり大雨となったが、その他の日は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年より多かった。1日から4日までは太平洋高気圧に覆われて晴れたため気温が上がり、県内すべての観測所で4日連続して真夏日となった。5日から7日にかけては朝鮮半島南部にある梅雨前線が活動を強めながら九州北部を南下したため、黒木で6日1時までの1時間に53mmの非常に激しい雨を観測するなど、県内各地で85~220mmの大雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より1.0~1.7 高く、旬降水量は85~237mm(平年比60~129%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は多かった。

7月中旬：初めは大雨、九州北部地方は19日頃梅雨明け

中旬は中頃まで梅雨前線や太平洋高気圧からの湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多かったが、終わりは太平洋高気圧に覆われて晴れた。11日から13日にかけては梅雨前線が朝鮮半島南岸まで南下して活動が活発となったため、県内各地で103~391mmの大雨が降った。特に12日は黒木で5時での1時間に55mmの非常に激しい雨を観測するなど、局地的に雷を伴った激しい雨が降った。大牟田では日降水量271mm(7月の多い方からの第2位)を観測した。19日は梅雨前線が九州南岸で活動が弱まり太平洋高気圧に覆われたため、九州北部地方は7月19日頃梅雨明けした。県内各地の旬平均気温は平年差-0.2~+0.7 で、旬降水量は131~445mm(平年比130~312%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少なかった。

7月下旬：晴れて暑い日が続く、30日、福岡県に高温情報を発表

下旬は太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いた。28日以降は強い日射の影響で積乱雲が発達し、にわか雨の降った所もあった。日照時間は福岡で平年より多く、その他の観測所では平年よりかなり多かった。気温は平年よりかなり高めに経過し、特に内陸部の甘木では、25日に最高気温が37.1を観測するなど、最高気温が35 前後まで上がる日が続いた。7月20日から29日までの県内各地の平均気温は平年より1.4~2.3 高くなり、その後も気温の高い状態が続く見込みとなったため、福岡管区気象台は30日、福岡県に高温に関する気象情報を発表した。県内各地の旬平均気温は平年より1.3~2.3 高く、旬降水量は0~51mm(平年比0~62%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。

8月上旬：中頃まで晴れて暑い日が続く、3日は甘木で最高気温38.1

上旬は中頃まで太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が続いた。県内の最高気温は、3日は甘木で38.1、4日は行橋で36.0、5日は大牟田で35.8を観測し、8月の最高気温の第1位を記録した。旬の終わりは湿った空気や前線が九州北部を南下した影響で、曇りや雨の日が多かった。8日から10日にかけては県内各地で12～96mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より1.3～2.2高く、旬降水量は18～119mm（平年比39～222%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

8月中旬：晴れて、真夏日となる日が多い

中旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は、福岡、飯塚、太宰府で平年並だった他は、平年より多くなった。午後は強い日射の影響で雷雲が発生し、にわか雨の降った所もあり、15日は福岡で16時までの1時間に22mmの強い雨を観測した。各地の最高気温は11日は前線、台風の影響で県内のほとんどの観測所で30を下回った20日以外は、30以上の真夏日が続いた。20日は大型で強い台風第11号が九州の南東海上を北東進したが、福岡県への影響はなかった。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～1.8高く、旬降水量は0～42mm（平年比0～55%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

8月下旬：晴れの日が多い、30日は全域で雨

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年より多かった。気温は、前半は平年並か平年より高く、後半は平年並か平年より低く経過した。また、旬の終わりは最低気温が20を下回る所が多くなり、涼しくなった。30日は東シナ海から九州南岸に前線が伸び出して低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で29～72mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.4～1.2低く、旬降水量は29～75mm（平年比40～131%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は多かった。

9月上旬：曇りや雨の日が多い、6日は大雨

上旬の前半は高気圧に覆われて晴れた日もあったが、後半は前線や湿った北東風の影響で曇りや雨の日が多かった。2日から3日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で23～64mmの雨が降った。5日から6日にかけては九州南岸で発生した低気圧が日本海西部まで北上した後、低気圧から南西に伸びる前線が活動を強めながら九州北部を南下したため、県内各地で16～97mmの雨が降り、6日は前原で16時までの1時間に32mmの激しい雨を観測した。気温は、前半は平年より低く経過したが、後半は高めに経過した。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.7\sim 0.0$ で、旬降水量は39～133mm(平年比62～220%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

9月中旬：前半は曇りや雨、後半は晴天

中旬の前半は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かったが、後半は高気圧に覆われて安定した晴れの日が続いた。このため日照時間が平年より多かった。13日から15日にかけては秋雨前線の影響で、県内各地で8～45mmの雨が降った。最高気温は16日以降平年より高めに経過し、甘木では連日の真夏日となったが、一方、最低気温は18日に飯塚で14.7を観測するなど平年より低い日もあり、気温の変動が大きかった。県内各地の旬平均気温は平年より $0.1\sim 0.9$ 高く、旬降水量は10～45mm(平年比14～71%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は多かった。

9月下旬：晴れの日が多い、気温の変動が大きい

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年より多かった。30日は低気圧が九州北岸を通過したため、県内各地で38～80mmの雨が降った。気温は、初め平年より低く経過したが、中頃からは平年より高めで経過した。23日の明け方は放射冷却が効いて気温が下がり、添田で11.5の最低気温を観測するなど10月中旬並の気温となった。一方、27日は甘木で30.0の最高気温を観測するなど、この旬は気温の変動が大きかった。県内各地の旬平均気温は平年より $0.2\sim 0.8$ 高く、旬降水量は39～82mm(平年比61～174%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

10 月上旬：晴れの日が多い、9 日はまとまった雨

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。9 日は対馬海峡の低気圧から伸びる前線が活動を強めながら九州を通過したため、県内各地で 28～67 mm のまとまった雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より 0.4～0.8 高く、旬降水量は 37～77 mm（平年比 107～203%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

10 月中旬：晴れの日が多い、19 日の最低気温は飯塚で 8.5

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年より多かった。16 日から 17 日にかけては九州南海上を北東進する台風第 21 号から流れ込む暖かく湿った空気の影響で、九州南部に停滞する前線の活動が活発化し、県内各地で 38～64 mm のまとまった雨が降った。19 日は黄海に中心を持つ高気圧に覆われて晴れたため放射冷却が効いて冷え込み、19 日の最低気温は飯塚で 8.5、添田で 8.7 など県内 6 つの観測所で、この秋初めて 10 を下回った。県内各地の旬平均気温は平年差 -0.1～+0.8 で、旬降水量は 38～64 mm（平年比 89～262%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量と日照時間は多かった。

10 月下旬：天気は周期的に変化、気温が高く、降水量が多い

下旬は高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。21 日から 22 日にかけてはチェジュ島付近で発生した低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で 17～83 mm の雨が降った。特に、22 日は頂吉で 15 時までの 1 時間に 38 mm の激しい雨が降り、10 月の日最大 1 時間降水量の第 1 位となった。27 日から 29 日にかけては低気圧が対馬海峡を通過し、28 日を中心に各地で 12～89 mm の雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より 2.0～2.8 も高く、旬降水量は 43～139 mm（平年比 271～604%）とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

11 月上旬：6 日はこの秋初めての冬型気圧配置

上旬の天気は短い周期で変化し、曇りや雨の日が多かった。3 日は低気圧が九州南岸を通過したため県内各地で 16～40 mm の雨が降った。5 日から 6 日にかけては低気圧が九州北岸を通過し日本海へ抜けたため、県内各地で 16～43 mm の雨が降った。6 日はこの秋初めて西高東低の冬型気圧配置となり、各地の日最高気温は 11 月下旬並となった。9 日から 10 日にかけては寒気が流れ込んだ影響で大気の状態が不安定となり、県内各地で 2～23 mm の雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より 0.5～1.3 低く、旬降水量は 42～92 mm（平年比 141～277%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

11 月中旬：晴れの日が多い、寒気が入り気温は低め、14 日は福岡であられを観測

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間は平年より多かった。14 日から 15 日にかけては寒気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、県内各地で 1～28 mm の降水を観測した。14 日は福岡であられを観測した。気温は、旬の中頃寒気が入ったため平年より低く経過した。特に、14 日の最高気温は八幡で 10.6 と 12 月下旬並の寒さとなったのをはじめ、各地とも 12 月上旬から中旬並となった。県内各地の旬平均気温は平年より 1.1～2.6 低く、旬降水量は 1～40 mm（平年比 5～159%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

11 月下旬：前半は晴れ、後半は曇りや雨、29 日は福岡の日降水量 84 mm（11 月の第 1 位）

下旬の前半は高気圧に覆われて安定した晴れの日が続いた。このため日照時間は平年よりかなり多かった。後半は寒気や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。26 日から 27 日にかけては冬型気圧配置となり県内各地で 0～8 mm の降水があり、27 日は脊振山で初冠雪（平年より 7 日早い）を観測した。29 日から 30 日にかけては低気圧が朝鮮半島南岸を通過したため、県内各地で 64～94 mm のまとまった雨が降った。特に、29 日の日降水量は篠栗で 91 mm、大牟田で 85 mm など県内 7 つの観測所で 11 月の日降水量の多い方からの第 1 位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より 0.1～0.8 高く、旬降水量は 65～102 mm（平年比 172～345%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間はかなり多かった。

12月上旬：晴れの日が多く、気温が高い

上旬は一時冬型の気圧配置となった日もあったが、概ね高気圧に覆われて晴れの日が多かった。3日から4日にかけては低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で2～16mmの雨が降った。6日は一時的に冬型の気圧配置となったため、しぐれて1～10mmの降水を観測した所があった。10日は高気圧が北に偏って張り出し、日本海で発生した雲が北部沿岸部に流れ込み、1～5mmの降水を観測した所があった。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～1.5 高く、旬降水量は3～28mm(平年比20～135%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

12月中旬：寒暖の変動が大きい、16日は福岡で初霜・初氷

中旬の初めと終わりは高気圧に覆われて晴れたが、その他の日は低気圧の通過や冬型の気圧配置となり寒気が流れ込んだ影響で、曇や雨の日が多かった。12日から13日にかけては低気圧が発達しながら九州北部を通過したため、県内各地で14～54mmの雨が降った。14日は強い冬型の気圧配置となり寒気が流れ込んだため、福岡ではあられを観測した。この冬一番の寒気が流れ込んだため15日以降は、各地とも気温が下がった。16日の朝は晴れて放射冷却が効いたため気温が下がり、飯塚、甘木、久留米、黒木、大牟田で最低気温が氷点下となり、福岡では初霜(平年より8日遅い)と初氷(平年より1日遅い)を観測した。17日は低気圧が九州南海上を通過したため、県内各地で1～11mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.2 低く、旬降水量は25～57mm(平年比199～321%)と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量はかなり多く、日照時間は平年並であった。

12月下旬：冬型気圧配置となってしぐれる日が多い、21日は福岡で初雪

下旬は冬型の気圧配置となることが多く、寒気が流れ込んだ影響でしぐれる日が多かった。このため日照時間が平年より少なかった。21日夜から22日にかけて冬型の気圧配置が強まり、21日は福岡で初雪(平年より8日遅い)を観測した。25日は上空に強い寒気を伴った低気圧が四国沖をゆっくり東進したため、最大瞬間風速は福岡で北北東の風22.8m/sを観測するなど突風や雷を伴った荒れた天気となり、県内各地で4～28mmの降水を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.6～2.2 低く、旬降水量は7～41mm(平年比46～218%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。